

1. 震災非経験世代による語り継ぎ教育の導入と震災関連アーカイブの再構築

(応募チーム：震災タイムスリップウォーク（神戸市）

(評価)

震災のような経験の記憶はときがたつと薄れていく。世代交代が加わるとそれに拍車がかかる。しかし防災や減災には過去の記憶と記録が大変重要となる。このような観点から、この応募チームのメンバーの一部は（公）ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 人と防災未来センター(DRI)の「1.17 メモリアルアプリ」開発とそのアプリ上で 8 ミリフィルムや写真の記録をもとに当時の様子をアーカイブ化（記録とその撮影場所の正確な位置のメタデータ化）して後世に残そうという試みを積み重ねてきた。この経験の上に、今回は震災を知らない若い世代（大学生）にアーカイブ化の作業を充実（上記の記録の位置特定作業に加えて住民からの聞き取り調査結果もメタデータ化）してもらふことなどで、当時の記録の利用のしやすさのための再整理と、さらに高校生による現場歩きとこのアプリを利用した疑似体験を行って震災を知らない世代に震災の実態を継承（ゆくゆくは語り部候補になり得る）してもらおうという試みを始めているもので、今後の防災減災の社会的な情報共有の基盤をつくるという意味で大変評価できる。

(アドバイス)

(1) アーカイブの充実

アーカイブの対象として、震災記録の地域の拡大や内容の充実のため当時の住民への自主的な情報提供の協力の促すための仕組みを検討されてはいかがでしょうか。これを支えるために、例えば、住民が自発的に情報（写真記録など）をアップし共有できるような住民主体のプラットフォームも有効かもしれません。ただ震災経験世代の高齢化が進む中で、その利用は若い世代の協力も必要な場合も多いと思われるので、今回の試みのような高校生の減災防災教育が広まって彼らから震災経験世代に協力を促していくといったことも検討されてはと思います。また、震災から復興に至る過程の情報のアーカイブ化も体系的にされてはいかがでしょうか。

(2) 学生生徒の防災減災教育の波及効果による一般市民の防災減災教育意識の向上

アーカイブが単に過去の記録にとどまらず、学校での防災減災教育との連携の拡大（アーカイブ利用校の拡大）をお考えですので、計画的にこの充実を図っていただけたらと思います。大学から高校、さらに中学校から小学校へと広がると素晴らしいと思います。こうした学生生徒の防災減災教育でのアーカイブの利用を通じて、その家庭内や地域での学生生徒による伝搬力を活かして、震災経験のない一般市民にも防災減災意識が高まり、さらには、過去のアーカイブから今の一般市民や学生生徒の防災減災活動に具体的にどうつなげていけばよいか、そしてそれをどう実装するかの見通しをオープンに議論し方向を出されるコミュニケーションの場が育っていくこともあるのかと思います。これは例えば（1）のプラットフォームと一体化するか連動させるといいかもしれません。

(3) 推進体制の充実

今回のアイデアの裏には市民グループがいましたが、今後の活動の充実を考えると、市民グループの基盤の強化をめぐって何らかの工夫をされたいかがでしょうか。例えば上記（1）、（2）の充実による防災減災に関心を持つ未体験世代の広がりという好循環が生まれてくるのを期待したいと思います。一つは協力大学の拡大と防災減災教育でのアーカイブ利用高校拡大を通じた、将来の担い手を育成する

ことを意識した取り組みです。また、大学生⇒高校生〔⇒中学生⇒小学生〕⇒その親世代などの地域の住民の意識向上といった世代の時間軸を逆にしたアプローチも視野にいれて、新しい震災非経験世代の市民による防災減災活動の担い手の拡大の契機にするのも効果があるかもしれません。

これに関連して、市民自身の防災減災意識の向上との相乗効果で、神戸市役所内の関連部署や兵庫県庁とのさらなる連携が図られることを期待いたします。